

社説

Editorials

毎月 日 新聞

深まるガザの惨状

憎悪と対立の連鎖を断て

罪なき人びとの血が日々流れる。憎悪と対立が世界を覆いつくす。被爆への連鎖を防ぐには、一刻も早く戦闘を止めなければならない。国際社会はそれぞれの立場の違いをいっしょに置き、解決への結束を取り戻すべきだ。

違法攻撃の懸念拡大

パレスチナ自治区ガザを拠点とするイスラム組織ハマスがイスラエルを襲撃してから、4週間がたった。約1400人の命が奪われたことに対し、イスラエル軍はガザへの激しい空襲に加え、地上戦力も投入。コテロ組織とみなすハマスの壊滅が目的だとするが、国際機関からは疑念が出ている。

ガザの死者は9千人を超えた。7割が女性と子供だと現地の人と戦闘員を区別しない「集団的懲罰」だと非難する。さらに、人口が密集する難民キャンプへの空襲について、別々の国連機関は「戦争犯罪の可能性がある」と指摘している。

警告に背を向けるかのようになり、イスラエルは軍事作戦の規模と強度を増している。ハマスは住宅地の地下に張り巡らせたトンネルを移動しながら、ゲリラ戦で対抗するだろう。市街戦で、軍事拠点や戦闘員だけを攻撃するのは極めて難しい。民間人の犠牲がさらに急増する事態は避けられない。

1948年に「ユダヤ人国家」としてイスラエルが建国されて以来、戦火の絶えないパレスチナの地に、和平の希望がともった時期もあった。

立ちすくむ国際社会

イスラエル軍はガザ北部の110万人に南部への退避を求めたが、空襲はその南部にも及ぶ。水や食料、燃料、医薬品などの不足も深刻だ。この先、支援助物資がどれだけ届くのかも見通せない。人道危機は深まり続ける。

国際人道法は守られているか。自衛を超えた過剰な攻撃ではないか。イスラエルの自衛権を支持する米欧の国々も、敵しく非難していることを忘れてはならない。

だがパレスチナ国家となるはずの地にユダヤ人入植地が拡大し、合意はなし崩しにされた。ガザは「天井のない監獄」と呼ばれるほど人や物の出入りが厳しく制限され、経済発展から取り残された。

世界の結束も弱まり、新たな分断が生まれた。米国は近年、外交の比重を「対中」に移す。そしてロシアのウクライナ侵襲。「国際的平和と安全」に責任を持つ国連安保理は、米欧と中ロの対立の舞台となり、機能不全に陥った。

ロシアの違法なウクライナ攻撃を批判する米国は、イスラエルについては自衛権をたてにかばい続ける。ロシアはウクライナでの民間人攻撃を棚に上げ、ガザの民間人保護を求める決議案を出す。どちらも自分勝手な二重基準というほかない。

国連総会では人道的休戦を求め、決議を採択した。だが加盟国を縛る力はなく、イスラエルは拒絶した。

国際社会は、紛争の根源を直視せずに「理不尽」を放置してきたばかりか、進行中の危機にすら何ら有効な手立てを打てずにいる。

2001年の同時多発テロに端を発した米国の対テロ戦争が、過激なテロ組織の台頭を招き、双方に多大な犠牲者をもたらした教訓を、今こそ思い起こしたい。

イスラエルが軍事的に勝利しても、パレスチナ人の怒りと憎悪は消えない。ハマスが襲撃しても、第2、第3のハマスが生まれる余地は残ると認識すべきだ。

地域越え広がる危機

すでに紛争はガザから世界に浸出し始めている。パレスチナのヨルダン川西岸地区でも衝突が激化し、死者は100人を超えた。大衆蜂起につながる懸念がぬくえない。

隣国レバノンに拠点置くイスラム教シーア派組織ヒズボラや、シリアの武装組織などからも、イスラエルへの敵意的な攻撃が起きている。

ハマスの場合、いずれもイスラエルを敵視するイランが支援する。紛争が中東全体に広がらねない情勢だ。イランは自制すべきだ。各国も紛争の拡大を防ぐ外交努力を強める必要がある。